令和８年度　第２回　光が丘中学校運営協議会　会議録（要点記録）

１　開 催 日 時　　令和８年９月１１日（金）　午後１時３０分から午後３時１５分まで
２　開 催 場 所　　浜松市立光が丘中学校　校長室
３　出 席 委 員　　溝口　玄、松井　章泰、森下　智子、實森　浜代、坂井　久司、正久　達、
　　植田　渉
４　欠 席 委 員　　笹竹　和行
５　学　　校　　村松　還（校長）、瀬戸　一志（教頭）、石田　真（ＣＳ担当職員）、
　　堀部　純子（ＣＳディレクター）
６　傍　聴　者　　なし
７　会議録作成者　　ＣＳディレクター　堀部　純子
８　議長の選出
　第１回学校運営協議会において、副会長が継続して議長を務めることが承認されたため、前回と同様に松井委員が議長を務めることとなった。

９　熟 議 事 項
　（１）部活動の地域展開について
　（２）地域協力者による授業支援について

10　会 議 記 録
　司会の教頭から、委員総数８人のうち７人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（１）部活動の地域展開について

　議長の指示により、校長より部活動の地域展開について、資料（６～７頁）に基づき説明があり、委員からは以下の発言があった。

●「はまクル」のホームページを見た。光が丘中の生徒にとってはここで活動できるのはよかったと思う。（坂井委員）
●吹奏楽部の指導員は今年限りなのか。楽器の管理はどうなっているか。（植田委員）
→基本的には単年度契約だが、国の方針によって左右される。長く一緒にやれたらと思う。楽器の管理は学校でやらざるを得ないし、使わないと活動できない。（校長）
●男子バレー部の活動について、光が丘中でできる生徒はいいが、細江中の生徒がこちらに通うのは、どうなっているか気になっている。（正久委員）
→現状は保護者の送迎に頼るしかない。（校長）
●「はまクル」が始まったという実感がある。陸上部は何人で活動しているのか。（實森委員）
→２５人程度で活動している。（校長）

●男子バレー部の活動について（現在は光が丘中で活動しているが）、今在籍している生徒が卒業したら、細江中で活動することになるのか。（森下委員）
→男子バレー部は人数の増減で活動場所が変わる可能性がある。細江中が単独で活動できる人数が集まった場合、光が丘中での活動が続けられるかはわからない。（校長）
●大会の運営に先生が関わることはなくなるのか。（坂井委員）
→「はまクル」は活動を維持するための組織で、中体連の大会とはリンクしていない。（なので、大会は先生方が運営する。）ただ、クラブ化したところも大会に出られるように、努力はしてくれている。（校長）
●中学校の保護者の理解も大事だが、これから上がってくる小学生が不安に思うことはないか。（松井委員）
→なるべく情報提供していく。ホームページ等で広報に力を入れていかなければならない。（校長）
●本来の目的である先生方の働き方改革での成果はどうか。まだ始まったばかりだが、「はまクル」が助けになれるかどうかが課題だ。（正久委員）
●土日も活動していた昔を知る身としては少し寂しさも感じるが、保護者と子どもたちが了承しているのならよいと思う。（溝口会長）
●お金の管理が大変そうに見える。システム化はされているか。（植田委員）
→システム化はされているが、国からの補助金の申請に手間がかかる。（校長）
●他の地域で事務仕事を代行してくれる人がいないかと思っている指導者もいる。また、送迎は保護者が行うのは致し方ないのか。（坂井委員）
→現状は保護者に頼らざるをえない。（校長）

協議の結果、「部活動の地域展開について」は、「はまクル」の活動を見守っていくという共通理解が得られた。

（２）地域協力者による授業支援について

議長の指示により、教頭から資料（８頁）を用いて説明があり、委員からは以下の発言があった。

●家庭科の調理実習の補助は、高齢者をサポートするボランティアの「やまゆりの会」のメンバーで担当している。かなり定着してきている。（實森委員）
●学校の要望と、地域ができる支援とのバランスが重要だ。（松井委員）
●地域の教育資源を活用していくとよいと思う。（正久委員）

協議の結果、「地域協力者による授業支援について」は、引き続き、支援を推進していくという見解で一致した。

【その他報告事項等】

●司会の教頭から今後の予定について以下の説明があった。

・第３回学校運営協議会　令和８年１２月　８日（火）１３：３０～

・文化発表会　令和８年１０月　２日（金）　９：４５～

・体育大会　令和８年１０月３０日（金）　８：３０～